

少年の塔の整備作業を行いました

2020.7.4

例年、8月の慰霊祭に向けて、6月と7月に教育会代議員の皆さんと、教育会理事、常任、幹事が伊那公園にある少年の塔の清掃や周辺の草刈り等を行っています。今年度は、感染症対策として大人数で作業することを避け、7月4日（土）に理事、常任、幹事のみで作業を行いました。



雨天の中で行われた整備作業

少年の塔の由来

公益社団法人 上伊那教育会会長 小澤 徳夫

太平洋戦争終結から、75年の歳月が流れようとしています。

昭和7年、満州国が誕生しました。「満州は日本の生命線」と言われ、計り知れない資源と広大で未開の原野を開拓して「王道楽土」を築き、国の食糧不足を補い、あわせて満州の治安維持を図るという国の政策に添うものでした。そんな中、全国では満蒙開拓青少年義勇軍が、10代前半の少年らによって編成されました。



伊那公園内に静かに佇む「少年の塔」

国家総動員体制が強化されていく中、上伊那教育会においても、教師自身が率先して大陸に渡りました。また、上伊那義勇軍父兄会を組織するなど、国策に積極的に協力し、昭和12年から終戦までに、郡下で約500名を越える満蒙開拓青少年義勇軍を送り出しました。そして、昭和20年8月8日、対日戦線布告したソ連軍が次々に大陸を南下し、「王道楽土」「五族協和」の夢は一瞬にして消え去りました。関東軍の武装解除による大混乱のなか、多くの満蒙開拓青少年義勇軍に参加した皆さんが、若き命を落としていくこととなりました。その数は上伊那で91名となります。

若くして散っていった人々の霊を慰め、永遠の平和を祈念するため、上伊那の市町村会、上伊那教育会をはじめ、各種団体の協力により、「少年の像」を建立しました。今、日本や世界の状況に目をやれば、いのちの尊さや平和に対する危機感を抱かざるを得ない出来事も少なくありません。

私たちは、過ぎ去りし日々思いを寄せると同時に、戦後75年を過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和を誓うことをこめて、毎年この少年の塔の整備作業、そして、慰霊祭を行っています。

今年は、少年の塔慰霊祭を10月に計画をしています。新型コロナウイルス感染防止のため、少人数での開催を考えていますが、平和について改めて考える機会としたいと思います。